

風疹罹患妊婦における人工中絶胎児よりの 風疹ウイルス

鈴木 英太郎 (山口大学医学部小児科)

上村 輝夫 (")

小西 俊造 (")

研究目的

1974~1977年の風疹の流行に際して、妊婦の風疹罹患と胎児への風疹ウイルスの伝播、母親の不顕性感染における人工中絶胎児からのウイルス分離および高い風疹HI抗体価をもった妊婦の蔗糖勾配による風疹特異的IgMの有無の検索。

方法

妊娠初期に風疹の症状のあった例および、症状はないが風疹HI抗体価の高い例および、風疹HI抗体価が高く、蔗糖勾配による風疹特異的IgMが検出された例について、人工中絶胎児の各臓器別の風疹ウイルス分離を試みた。ウイルス分離にはRK-13細胞を使用し、VSVで干渉を行った。同定はウサギに分離ウイルスを接種して抗血清のHI抗体の証明で行った。

成績

13症例でウイルス分離を施行し、6例に風疹ウイルスを分離した。臨床症状がなくてもウイルス分離できた症例や、臨床症状があってもウイルス分離の出来ない症例があった。眼筋、眼球からのウイルス分離が比較的良好に出来た。

結論

妊娠初期の風疹罹患は胎児への風疹ウイルスの伝播が起っていると考えられる。風疹HI価の高い妊婦で臨床症状のない症例は蔗糖勾配による風疹特異的IgMの有無の検索が望ましい。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

研究目的

1974～1977年の風疹の流行に際して、妊婦の風疹罹患と胎児への風疹ウィルスの伝播、母親の不顕性感染における人工中絶胎児からのウィルス分離および高い風疹HI抗体価をもった妊婦の蔗糖勾配による風疹特異的IgMの有無の検索。